

2020年度 福島第一原子力発電所及び福島第二原子力発電所合同防災訓練(9/11)における
課題対応等について(案)

2020年9月11日に実施した福島第一原子力発電所及び福島第二原子力発電所防災訓練時において、問題点は抽出されなかったものの、更なる向上を目指し、以下の改善項目を抽出した。抽出された項目に対し、改善に向けた取組みを検討する。

【抽出された内容】

No	改善内容	改善点	備考
①	【1F】 実効的な訓練の実施	現在の総合訓練では、実動のない図上訓練が多く、実効的な訓練になっていない。	
②	【2F】 発話タイミング・内容の最適化	緊急発話タイミング・発話内容についてルールを定めているが、無駄な発話、タイミングを逃した発話がある	緊急時対応ルールの改善
③	【本社】 10条確認会議, 15条認定会議の対応。	福島第一原子力発電所の10条確認会議内での説明において、説明時間が少し長かった。	発話事例集の作成。

抽出された更なる改善事項について、No.3については、2020年度の柏崎刈羽原子力防災訓練時において改善状況を確認するとともに、その他については、来年度の緊急時演習にて確認する。

No.1:実効的な訓練の実施

(1) 訓練時に抽出された課題(意見抽出箇所:ERCパンチリスト, 社内評価者)

現在の総合訓練では実動のない図上訓練が多いことから、緊急時対策本部と現場を連携した実効的な訓練により課題抽出・改善を行うべきである。

(2) 原因

これまでの総合訓練における検証項目・評価基準は、緊急時対策所内の活動や情報共有、即応センターへの情報発信に関する部分が多いことから、総合訓練で現場主体の要素訓練を取り入れることが少なく、緊急時対策本部と現場の連携に関する課題抽出ができていなかった。

(3) 対策

緊急時対策本部と現場の連携部分を評価する訓練を設定し、当該部分に関する課題抽出・改善を行う。

No.2:発話タイミング・内容の最適化

(1) 訓練時に抽出された課題(意見抽出箇所:ERCパンチリスト, 社内評価者)

発話の基本ルール・緊急発話の内容、タイミングについてルールを定め訓練を実施しているが、致命的な問題とならなかったものの、事前訓練を含め複数回の訓練にてタイミングを逃した発話や、発話内容の過不足があった。

(2) 原因

緊急発話のタイミングや内容についてルールを定めているが、詳細ルールの策定が不足した箇所があり、判断に迷った結果発話時期を逸した発話、発話内容となってしまった。

(3)対策

現在の発話ルールについて、発話タイミングや発話内容について迷う箇所の洗い出しを行いルールの改善を行い、訓練を継続して行っていく。

No.3:10 条事確認会議, 15 条認定会議の対応【本社】

(1)訓練時に抽出された課題（意見抽出箇所:ERC パンチリスト）

福島第一原子力発電所の 10 条確認会議において、今後の戦略、進展予測を丁寧に説明出来たが、簡潔な説明について意識すべきであった。

(2)原因

事象判断後速やかに参集し、必要な内容を会議の中で説明すること、および判断から確認／認定まで評価目安である 10 分以内に収まっているかについて反復訓練で確認していたが、「簡潔な説明」の基準が明確でなく、目安時間以内で終了していれば問題ないと考え、説明時間を短くすることについての意識が低かった。

(3)対策

各事業者の 10 条確認会議等の説明をベンチマークし、模範説明文を作成する。

以 上